

第八回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会

平成30年5月30日（水）18:00～19:00

テーマ「コンビニエンスストアの現状について」

5月30日（水）開催の、第8回川尻・安浦地域包括ケアシステムを樹立する会（以後、樹立の会）のご報告をさせていただきます。この度は、樹立の会を立ち上げる大きなきっかけとなった、コンビニエンスストア（以後、コンビニ）についての研修会を行いました。

当初は、川尻・安浦・仁方地区の8店舗のコンビニ店長・オーナーに、樹立の会の趣旨を説明し、コンビニと医療・福祉とで、何か地域貢献が出来ないかなどの議論が出来ればと考えていました。

ただ当日の参加は、1店舗のオーナー、エリアマネジャーのみでしたが、事前アンケートについては、半分の4店舗からご意見を頂きました。

コンビニが6店舗ある、川尻・安浦地区。当法人理事長の発案で、夜間帯に本当に6店舗も開けておく必要があるのか？という疑問と、コンビニの夜間スタッフの確保が難しいという声を聞き、呉市医師会病院の夜間帯で行われている、輪番制（開業医の先生たちが交代で外来患者を対応）を導入してはどうかと、11の質問項目の中で、特にこの奇想天外な質問をしました。

事前アンケートからは、「そう思う」、「絶対に無理」という意見とで分かれていました。「来客数が少なく必要ない」、「フランチャイズのため本部の了解が得られないから、閉められない」という意見の一方、「防犯の役割を果たしている」、「コンビニとはいえ、公的な立ち位置になりつつあるので外せない」、「夜間、商品の搬入もあるので、誰かが店舗に居ないといけない現状は解消されない」との意見も聞かれた。

初めて耳にする人は、絶対無理と感じているだろうが、その無理であろうという概念を取り除き、柔軟な発想を持つことが、地域存続の大きなヒントになると思わせる部分がありました。

